

家畜は物ではない
人間と同じように、
ストレスを感じるいのちです。

【京都】かんばやし 自然農園グループ

日本とEU27か国のアニマルウェルフェアの動向とAWFCJの役割

ー特に平飼い卵の視点からー

AWFCJ 代表 植木 美希（日本獣医生命科学大学 名誉教授）

先進国では、動物福祉（アニマルウェルフェア）の取り組みが進んでいます。

例えば EU27 か国の採卵鶏では 2012 年に従来型の狭いパタリーケージが禁止されて以来、ケージフリー養鶏への転換が急速に進展し、ケージフリー養鶏がすでに一般的になっています。ケージフリーとは、平飼い（エイビアリーを含む）、放牧、鶏が食べる飼料にまでこだわった有機生産の 3 つの生産方法です。9 月 10 日に発表された EU の最新のデータによると 2024 年実績で 61.9% の採卵鶏がケージフリーで飼育されています。（残り約 38% も広いエンリッチケージ）。ケージフリー化への動きは止まることはありません。生産方法については卵そのものに 0（有機）、1（放牧）、2（平飼い）、3（エンリッチ）の数字を印字することによって消費者に見える化したことが、ケージフリー化を著しく促進した成功要因と考えられます。

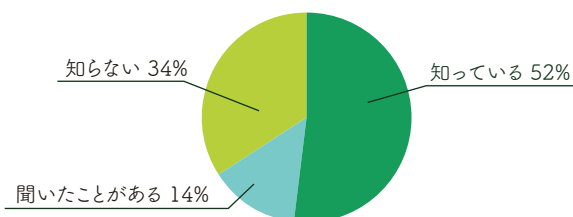
日本においても、近年、多くのスーパーで平飼い卵を目にするようになりました。

東京オリンピックを契機に流通業界が注目するようになり、大手スーパーの手頃な価格帯のプライベートブランド平飼い卵も登場したことで、平飼い卵は消費者の身近な存在になりつつあります。

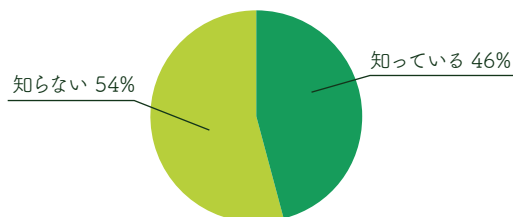
とはいえ、アニマルウェルフェアという言葉や内在する意味や意義については、まだ身近とはいえないようです。

昨年 2024 年のオーガニックライフスタイル EXPO in 東京の当会のブースにおいて日本獣医生命科学大学 4 年生の実施したアンケート調査では平飼い卵の購入経験は、ほぼ 100% でした。とはいってもそのアニマルウェルフェアの言葉については 52% は知っていると思いましたが、知らないが 34%、聞いたことがある 14% との結果でした。さらに有機畜産の飼育条件にアニマルウェルフェアへの配慮が含まれていることについて尋ねたところ、知らないとの回答が 54% と半数を超えています（図 2）。アニマルウェルフェアの普及にはまだまだ課題も残されているようです。

アニマルウェルフェアについて知っていますか。（図 1）



有機畜産物がアニマルウェルフェアに配慮した畜産物であることを知っていますか。（図 2）



さて、AWFCJ は 2015 年にアニマルウェルフェアのフードチェーンの実現を目指してさまざまなステークホルダーが協働で設立した団体です。前身である 2002 年に発足した「農業と動物福祉に関する研究会」から考えるとすでに 4 半世紀近くが経過しました。

2023 年 7 月には農林水産省から WOA（世界動物保健機関）のコードに沿った「アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針」が公表され、今後は国内のアニマルウェルフェアへの取り組みが促進すると期待されます。

これまでの AWFCJ の国際シンポジウムやセミナーの開催等の地道な活動が、このような動きに少なからず寄与してきたと言っても過言ではありません。

今後もオーガニックライフスタイル EXPO への出展やアニマルウェルフェア大学、デモンストレーション農場の認定、ニュースレターの定期的な発行等を通してより広く社会への普及広報活動を行いながら、国内でのアニマルウェルフェアの普及と発展を目指していく所存です。今後とも当会へのご支援とご協力をお願いいたします。

秋川牧園の歩みと理念

株式会社秋川牧園 代表取締役社長 秋川 正

私たち秋川牧園は、山口県山口市の田園エリアに本社があります。創業は今から53年前、私の父が40歳の時、「1羽の鶏、1個の卵から健康に」との思いでスタートしました。

現在、秋川牧園で生産する品目は、若鶏をメインに卵、牛乳、豚肉、牛肉、野菜、米とその幅は広がってきました。また、自分たちの素材を使った加工品の製造も1980年代に始めており、チキンナゲットやからあげなどの冷凍食品をいわゆる「無添加」でつくっています。このように品目の幅が広いのは、創業間もない頃から消費者への宅配を続けていることもありますが、秋川牧園が目指しているのは、食べて下さる消費者と共に健康で、心豊かで、サステナブルな「暮らし」をつくることだからです。



人にとってよい畜産物には、飼育する動物自身が健康であることが欠かせないと考えてきました。若鶏でいえば、自然の光や風の入る開放鶏舎で、十分なスペースを確保すること。そして、飼育を担当する人がちゃんとモチベーションをもっていることが大切です。鶏を観察して、暑がっていないか、寒がっていないか、床は湿っていないか、飼料や水のラインの高さは適切か。そこから何かを気づき、労を惜しまず鶏にとっての環境がよくなるようにアクションを取っていく。そのことで、抗生物質に頼らなくても鶏たちは元気に育っていくのです。

一方で、近年の気候変動による「猛暑」は飼育管理における重要課題になってきました。鶏は汗腺がないこともあって、体温の調節が苦手です。少しでも涼しくしてやろうと、大型の扇風機を増設したり、鶏舎内にスプリンクラーで散水したりしています。それでもエアコンを設置しているわけではないため、アニマルウェルフェアの観点でも、鶏にとっては厳しい環境にあることは事実です。今までは開放鶏舎の

採用を基本方針にしてきましたが、ウインドレス鶏舎のよさを再評価する必要性が高まりつつあると思い始めているところです。様々なコストアップや人手不足など、畜産現場では他にも多くの課題がありますが、これからも動物自身の健康を基本に、よい食、よい農業、そしてよい暮らしを目指していきたいと思っています。

欧米で進むアニマルウェルフェア(動物福祉)認証 植木 美希

欧州では、スーパーマーケットに行くと、アニマルウェルフェアに配慮した畜産食品であることを証明するアニマルウェルフェア認証ラベルが貼付されている食品を多く見ることができます。イギリスの RSPCA ASSURED、オランダの Beter Leven、デンマークの AW 認証、アメリカでもグローバルアニマルパートナーシップ、オーストラリアの RSPCA Approved Farming などが代表的なところでしょう。RSPCA ASSURED は1994年にフリーダムフード (Freedom Food) ラベルとして誕生しました。RSPCA (王立動物虐待協会) はイギリスで1824年に設立された動物福祉を推進する非営利団体です。イギリスでBSEの発生以降、畜産食品の安全性と人の健康が密接に関係しているとの考えから、消費者のアニマルウェルフェアへの理解を促進するためには、アニマルウェルフェアの原則・定義として使用される「5つの自由」、英語では Five Freedoms と言いますが、この定着が重要だと考え、ラベルのブランド化を図りました。その後 欧州では採卵鶏の生産方法の表示も開始され、「5つの自由」については浸透したとの考えから、2015年には RSPCA ASSURED と再ブランド化を図りました。すでに30年の歴史があります。このラベルが世界のアニマルウェルフェアの推進に大きな影響を与えてきたことは間違いありません。

オランダでも2007年にアニマルウェルフェアの取り組みのレベルを3段階で表示するベターレーベンという表示を開始しました。AWFCJ でも会設立当初にロゴを検討する際、参考にした表示です。オランダでも急速にアニマルウェルフェアへの取り組みが進んでいます。いずれにしろ、消費者にわかりやすいアニマルウェルフェア表示は、生産者にとっては、プレミアムが付きますし、消費者にとっては少々高くても購入したいというモチベーションになりますので、本会としても引き続き表示については検討していく必要がありそうです。



イギリス RSPCA ASSURED



オランダ Beter Leven



デンマーク動物福祉認証



アメリカ GAP認証



オーストラリア RSPCA認証

第2回 オーガニックライフスタイルEXPO West in 京都 2025

今回の出展にあたっては、来場者にAWFCJの活動を紹介するため、生産者MAPとニュースレターを作成しました。ブースの中央には、生産者会員を日本地図上に配置した大きなマップを掲示し、生産者から集めた製品の販売も行いました。

販売したのは、会田養鶏の平飼卵、秋川牧園の平飼卵やバターチキンカレーのレトルト、黒富士農場のオーガニックバウムクーヘン、小林農園のオーガニック卵、どろぶたの無添加ベーコンやソーセージ、なかほら牧場のプリンや牛乳などです。販売にはやや苦戦する面もありましたが、畜産製品を置くことで、アニマルウェルフェアに関して多くの来場者とコミュニケーションをとることができました。

また、別会場では2日間にわたるセミナーも開催しました。初日には、矢崎栄司前代表から「AWFCJの活動について」、植木美希代表からは「動物福祉・アニマルウェルフェア世界の歩み」をテーマに講演しました。2日目には、アニマルウェルフェアコーポレートパートナーズの代表を務める上原まほ氏から「採卵鶏のケージフリーをめぐる最新情報」についての講演がありました。続いてはトークセッションとして、「日本のアニマルウェルフェアファーマーの実例～森の京都・綾部と愛知県・渥美半島の事例」をテーマに、かんばやし自然農法グループ世話人の氏本長一氏と、渥美フーズ代表取締役でオアシスファームを運営する渡会一仁氏からお話をいただきました。

会場では、植木代表をはじめ、理事の氏本氏や上原氏、渡会氏、サージ宮脇の宮脇健太郎氏、池嶋などの会員が運営を行いました。関西近郊のAWFCJ会員の方々にもご来場いただき、貴重な交流の機会となりました。Eat Natural 池嶋 丈児



Organic Lifestyle EXPO



西日本での開催は2回目となるオーガニックライフスタイル Expo in 京都は、東京会場が3日間、2フロアに対して2日間、1フロアとコンパクトで、来場者数も東京会場には及びませんが、一番の違いは地方自治体（市町村やその関連団体）の参加が東京会場の7団体に対して15団体と多かったことです。

これらの自治体は農水省が政策支援するオーガニックビレッジ～有機農業に地域ぐるみで取り組む自治体～に参加し、開催期間中も参加自治体連携会議を開催するなど積極的に活動していました。そのうちの複数の自治体関係者がAWFCJブースを訪れて豚の放牧を利用した耕作放棄地の有効利用に関心を持ってくれ、その後の現地視察などにつながっています。

ただ総体としては、依然として有機（オーガニック）は個人の健康との文脈で語られ有機農業は健康に有効な食材の生産という意識が主流で、資源循環や環境負荷などの視点が希薄なのが実情です。まして有機農業における家畜（畜産）の位置づけ、家畜アニマルウェルフェアの意義などへの理解にはほど遠く、今後とも根気強いAWFCJの活動が求められます。

かんばやし自然農園グループ 氏本長一

2025年11月1日（土）～2日（日）開催

第1回 アニマルウェルフェア大学 「五感をつかったアニマルウェルフェア」

AWFCJ(アニマルウェルフェアフードコミュニティジャパン)では、アニマルウェルフェアを学び、参加者の交流とネットワークを広げるアニマルウェルフェア大学を開講いたします。第1回は特別版！多くの消費者に愛され、支持されて、輪を広げている渥美フーズによる「五方よし」の豊かな社会を学びます。循環型農場オアシスファームでの「エコサークルツアー」と、ここだけのアニマルウェルフェアフードを味わい、みんなで学び、語らう場に参加しませんか？



感じる



渡会社長のガイドでオアシスファームの
果樹園放牧鶏、遊休農地放牧牛などを見学

味わう



渥美半島放牧短角牛、放牧鶏、
地元野菜と渥美半島クラフトビールを堪能

学ぶ



日本型アニマルウェルフェアの未来を描く

「放牧の可能性と放牧の基礎～耕作放棄地を放牧で蘇らせよう～」

宮脇 豊氏（サージミヤワキ株式会社代表取締役社長）

「アニマルウェルフェアの多様性」

氏本長一氏（かんばやし自然農園グループ（京都府綾部市）世話人）

「地域スーパー×アニマルウェルフェア」

渡会一仁氏（株式会社渥美フーズ・株式会社あつみ編集舎 代表取締役社長）



日 時 2025年11月1日（土）2日（日）
定 員 20名
申込締切 10月25日（土）
場 所 オアシスファーム（愛知県豊橋市寺沢町字西向530）他
参加費 16,000円（AWFCJ会員 14,000円）

参加費に含まれるもの

特別エコサークルツアー（ランチ付）夕刻の交流会（飲み物別途）

講座受講料、宿泊費、2日目の昼食（渥美食堂）

※2日目の朝食は含まれません。

※マイクロバスご利用の方は実費をいただきます。

お支払い 現地現金支払い

キャンセル 10月25日から100%発生します。

主 催 AWFCJ

お問い合わせ AW大学担当岡田

tomokon@d6.dion.ne.jp 090-2995-1976

申し込み <https://forms.gle/EJJKZ2Tofr7G3eSG7>

お申し込み QR



DAY01 11月1日（土）

10:30 豊橋駅前集合
11:00-13:30 ビオあつみ豊橋店散策、ランチ他
14:00-16:00 特別エコサークルツアー
18:00 渥美半島醸造前庭での交流会
ゲストハウス宿泊

※自家用車の方は11時ビオあつみ集合

※長靴、軍手をご持参ください。

DAY02 11月2日（日）

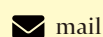
9:00-11:00 講義
「日本型アニマルウェルフェアの未来を描く」
12:30 昼食 渥美食堂
14:30 豊橋駅解散
※東日本、東京方面からは新幹線ひかりが便利です。

会員募集中

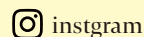
お申し込みはホームページから
<https://awfc.jp/memberinscript/>



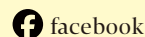
HP



mail



instagram



facebook

